



和田圭祐=1970年5月9日生まれ。広島大学歯学部卒。名古屋大学医学部大学院で医学博士号を取得。米国ハーバード大学大学院で08年6月、歯学博士号取得。米国歯周病専門医。現在ペンシルベニア大学歯学部でインプラント学ディレクターとして教鞭をとる傍ら、インプラントの臨床研究を行っている。

アメリカ発

最新歯科医療レポート

Vol.02 リポーター:和田圭祐

写真=1



根の一部がむき出しの状態になって、いる事をさします。この症状があると歯がしみやすくなり(知覚過敏)、歯磨きが

歯が以前と比べて少し長くなつたとか歯茎が縮んできたと思う事がないでしょうか？
これは歯周病専門医の間で歯肉退縮と呼ばれる歯肉歯槽粘膜の異常の一つです。写真1のように本来歯茎で覆われているはずの歯の

写真=2



で来院。中央3本の歯の根の部分が露出して知覚過敏を起していました。さらにその周りの歯肉は少し腫れた状態

審美障害(歯が長く見えるのが嫌)

写真1は、歯の知覚過敏と歯の

周形成外科

審美性と機能性を高める歯根面への歯肉移植術とその未来

歯肉移植で笑顔が戻る
難くなるため、むき出しの根の部分が高くなり、さらには歯肉の退縮が進んで最終的に歯が抜けてしまう事もあります。そのような場合、歯肉の退縮した部分に歯茎の一部を移植して、露出した根面を覆う歯肉移植術が行われます。

られました。

最新技術で傷も少なく

唯一の欠点は、移植する歯茎を歯の裏側(口蓋)と言われる部位から採取する必要があるため、傷口がふたつになってしまう事です。しかし最新の米国の研究では、自分の歯茎を採取せずに人工骨・成長因子・コラーゲン膜を使っても同じ効果があるというデータも出ています。治療はより傷つけない、少ない、確実な方法へと変わっていきます。

で、歯磨きもうまくできない状態でした。このケースでは、私は歯周病専門医として、露出した根面への歯肉移植を選択しました。写真2。歯根面を覆うため知覚過敏はなくなり、さらに歯も歯肉が退縮する前の状態に戻って見た目も若返ります。歯茎も強くなるのでさらに退縮する事もなく、適切な歯ブラシもできるようになり、歯茎の状態は以前よりずっと安定します。患者様も以前より大きな笑顔ができるようになりました。

WADA DENTAL OFFICE



新市・和田歯科医院

— M&K インプラントオフィス福山 —

院長・和田 勝 アメリカ歯周病専門医・和田 圭祐

福山市新市町新市726-1

(ムシバゼロ)

Tel. 0847-52-6480

詳しくは当院のインプラント専用サイトをご覧ください <http://www.wada-implant.net/>